



# わかば

2019. 5. 18

(令和元年)

第19-6号

文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm>

毎週火曜日更新

**教育目標** 「帰国後、日本の教育に円滑に適応できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持、併せて生活・生徒指導を行う。」

**重点目標** **一人一人が輝く教育** ～期待登校・満足下校～(2年次)

### 授業参観、学級懇談会へのご参加、ありがとうございました。

5月11日、18日と授業参観、学級懇談会へのご参加、ありがとうございました。

さて、日本国内でもこの時期に授業参観と学級懇談会を合わせた行事が組まれています。目的は、

- ①クラスの雰囲気を感じ取っていただく。・・・どのようなクラスかな？誰と遊んでるのかな？  
ちゃんと話を聞いているかな？ 等々
- ②担任の教育の方針や考えなどを知る。・・・どのようなクラスをめざしてあるのかな？  
相談や連絡をしてもらえるかな？ 等々
- ③保護者同士や担任との顔合わせをする。・・・〇〇係で一緒だった方だな。  
よく子どもの話に出てくる〇〇くんの・・・等々
- ④学校や学年の方針等の共通理解を図る。・・・〇〇のことが、あまりよくわからないな。  
他の家庭では、〇〇のことをどうしておられるか、知りたいな。 等々

保護者の皆様のご心配や気がかりなことを少しでも解消し、安心や期待へとつなぎ、担任と保護者の信頼関係、保護者同士の交流を深めることが目的です。また、教育委員会や学校、学年のきまり、方針等をご理解いただき、ご支援をいただくことも目的です。

今回の授業参観や学級懇談会を通して、お子様方の様子や学級の雰囲気等を感じ取られ、担任の考え方や方針などを知ることが出来たものと思います。これからのご支援、よろしく願いいたします。

<お礼>仕事や時間の都合を調整され、進行や記録等を担っていただいた教育委員、学級委員の皆様のご支援に心より感謝申し上げます。







【感想文 中学1年】 「花曇りの向こう」を読んで

廣田 瑛輔

僕は、「花曇りの向こう」を読んで宮下君の気持ちがよく分かりました。なぜなら、三年前、僕も転校してアメリカに来たからです。だれも知らなかったのですが、いつも一人で座って友達もできませんでした。なので、明生君のきこちなさなどがよくわかりました。

自分も父の仕事の都合で転校したので、とても似ているなと思いました。明生君が僕みたいになじんで友達もできたらいいなと思いました。

佐々木 ゆめ

私は、転校して新しい友達が出来るか不安だった主人公の気持ちに共感しました。きっと新しい学校の人はとても仲の良い友達のグループが出来ているのに、自分がそこに入れるかという気持ちになった事があるからです。

自分から友達を作ろうとする主人公は、私とは正対だと思いました。私だったら、話しかけるのがはずかしくて友達を作るのをあきらめてしまふからです。主人公のがんばる姿を見習いたいと思いました。

近藤 愛

私はこの「花曇りの向こう」を読んでみて、「僕」に共感できるところが二つあります。

一つ目は、最初の方の「僕」の気持ちについてです。転校して初めの方は、ドキドキして、不安になって、「自信がなくて」などと色々な感情が入り混じって、ゆううつな気分になります。そんな気持ちを、私も、転校してすぐの時あじわいました。

二つ目は、川口君との会話です。「僕」は、「思いつくのは後になってからだ」と言っていますが、すごく共感します。会話が上手にならなくて、気まずい空気になってから、「こう言えばよかったな」なんて思いません。

この二つのように、この「花曇りの向こう」を読んで、「僕」に共感できることが多かったなと思いました。

教科担任(島田先生)から・・・生徒が頑張っている姿が感じられる感想文です。

「花曇りの向こう」のあらすじ

○小学校卒業と同時に、ばあちゃんの家に移ってきた主人公、明生。中学生活が始まって3週間たってもなかなか友達ができず、会話も続かない。ある日、野外学習に持っていくお菓子を買いに駄菓子屋へ行き、同じクラスの川口君に会う。そこで、二人が小さい頃から食べていた梅干しのお菓子がきっかけで、明生の気持ちは前向きなものへと変わる。



私も小学4年、中学3年で転校を経験しました。転校する不安より仲の良い友達との別れが残念だったことをよく覚えています。転校したころは、作品や感想文と同じく、すぐに友達はできませんでしたが、話す機会が増えると徐々に仲間意識も生まれ、もともとはずっといたかのような転校生になっていったように思います。海外への転校ともなれば、本人だけでなく保護者も不安や気がかりが多いものだと思います。現地校の様子を見守ることはかないませんが、せめて、本校での転入生の様子は、気がけて見守り、担任と連携を図るように心がけています。

さて、感想文ですが、自分自身の体験と重ねながら、共感的に読み込んでいることがよくわかりますし、作品自体の面白い文章、言葉遣いに引き込まれているところもよくわかりました。つらい時期をたくましく頑張ってきたことに、感心と敬意を持ちました。

花曇りのどんよりとした空模様(転校したころ)も、いつかはきっと爽やかな天気(慣れる、なじむ)となることを、「向こう」で表しているものと思います。

関西弁や関西文化ならではのユーモアのある作品です。 ※次週も一部紹介します。

